

御宿町後期アクションプラン

笑顔と夢が膨らむまち

〔ともに支え合う挑戦と再生〕

(平成30年度～34年度)

平成29年12月

御宿町

笑顔と夢が膨らむまち

Action Plan 後期（H30～34）アクションプラン

この計画は、後期基本計画に基づく後期アクションプランとして、平成30年度から平成34年度までの5年間に於ける計画の具現化を図るものです。

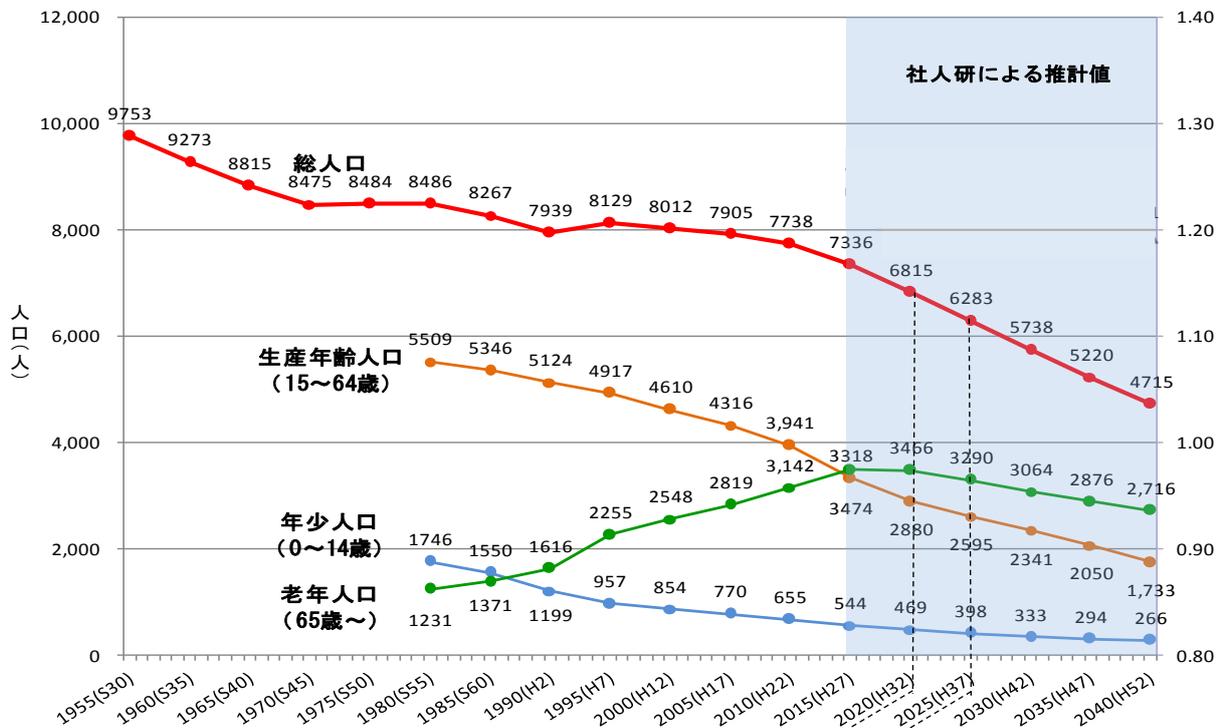
後期アクションプランでは、10のちからを越えた横断的な取組みとして「重点事業」を定め、実施年度と事業費見積額を示しました。

重点事業以外の主な取組みは「推進事業」と定め、後期アクションプランでは実施年度に○印を付記し、事業の実施を計画しました。

■御宿町における状況と後期アクションプラン掲載事業

国立社会保障人口問題研究所の推計によると、当町の人口減少は始まっており、平成32年（2020年）には6,815人、平成37年（2025年）には6,283人になると推計されています。さらに平成37年の人口構成は、65歳以上の人口比率が52.3%（3,290人）、生産年齢人口比率（15～64歳）が41.4%（2,595人）、年少人口比率（0～14歳）が6.3%（398人）になるとされています。

（年齢3区分別人口の推移） 御宿町人口ビジョンより



（出典：2010年までは国勢調査結果、2015年以降は国立社会保障人口問題研究所の推計）

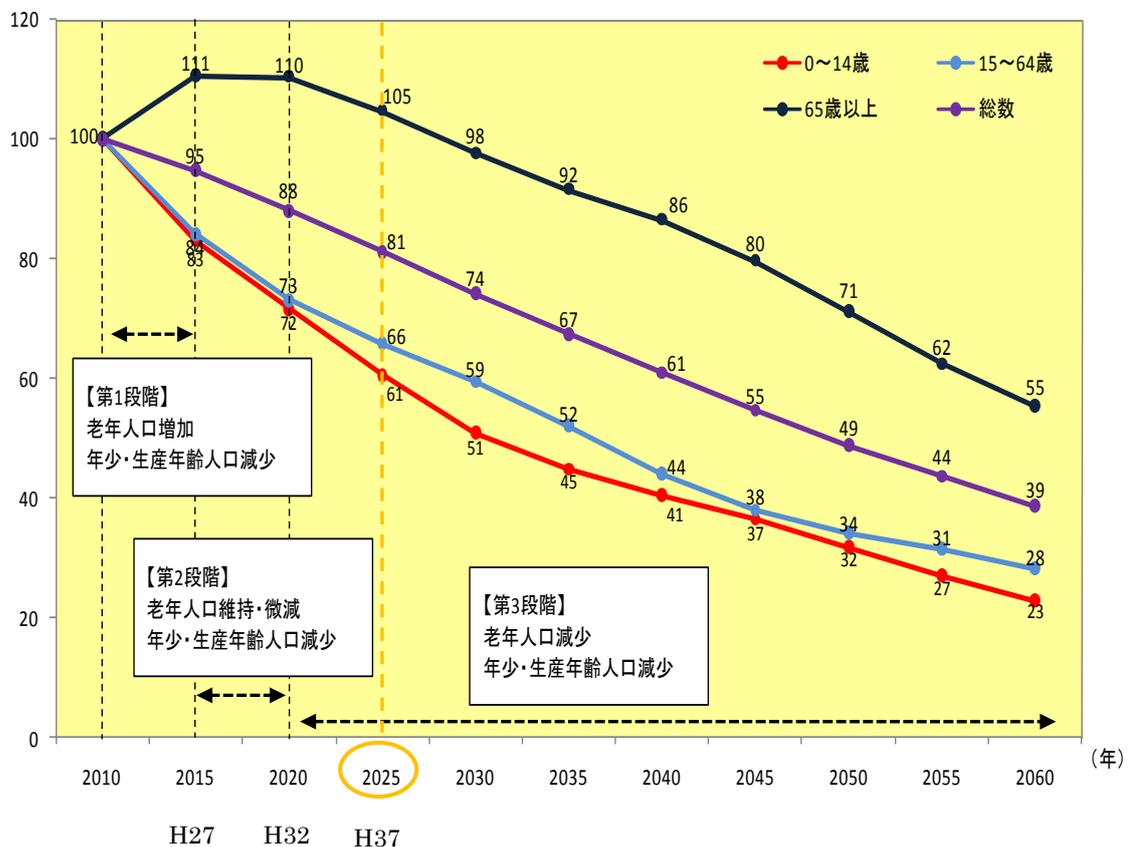
■平成 37 年（2025 年）以降は人口減少が加速すると予測

（人口減少段階の分析） 御宿町人口ビジョンより

御宿町の人口減少の段階予測では、平成 22 年（2010 年）の国勢調査を起点（100）とした場合、平成 37 年（2025 年）には、老年人口の減少と同時に年少・生産年齢人口も減少していく人口減少の最終段階（第 3 段階）に移行すると予測されており、この状況は当町の行財政運営において、極めて厳しい状況になることが予想されます。

このことを踏まえ、後期アクションプランでは、人口の高齢化に伴う社会保障費等への対応や地域防災対策、老朽化する公共施設等の適正管理の経費など、重要度の高い行政課題が山積するなかで、政策的な事業をより厳選して取り組んでいく必要があります。

御宿町の人口の減少段階



（出典：2010 年までは国勢調査結果、2015 年以降は国立社会保障人口問題研究所の推計）

■政策的な事業はより厳選して取り組む

後期アクションプランは、平成 30 年度～平成 34 年度までの財政推計に基づき、事業執行体制の充実及び特定財源の確保を考慮したなかで、行財政の効果的・効率的な運営を念頭に、後期基本計画における「主な取り組み」で列挙されたもののうち、主要事業を掲載しました。

■アクションプランを重点事業と推進事業に区分

主要事業は、「重点事業」と「推進事業」に区分し、重点事業は実施年度と事業費見積額を示しました。推進事業は、実施年度に○印を付記し、事業の実施を計画しました。

なお、行政課題を可視化するため、後期基本計画期間中の実施の有無にかかわらず、協議・調整が必要な事業も明記しました。

■後期アクションプランの期間

後期アクションプランは、平成 30 年度から平成 34 年度までの 5 年間とし、財政状況等に応じて事業を実施していくものです。

平成 33 年度からは事業の進捗状況や指標などの達成状況を確認しながら、平成 35 年度からはじまる第 5 次御宿町総合計画の策定につなげます。

年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34
基本構想	基本構想									
基本計画	前期基本計画					後期基本計画				
アクションプラン	← 前期アクションプラン →					← 後期アクションプラン →				
									第5次総合計画策定準備	

※ 1) 重点事業に明記された事業費見積額は予算額ではありません。今後の財政状況に応じて、毎年度、予算査定を行います。

また、重点事業において、国の政策や制度改正に伴う対応、緊急性・突発的な事項等による見直しの場合は、適宜協議とします。

※ 2) 重点事業に「協議」と明記された事業は、実施年度や事業費見積額が定まっていないため、財政推計値に盛り込んでいません。協議と記載された事業を優先的に行うには、その時点で他の重点事業の見直し・先送りの検討も合わせて行う必要があります。

※ 3) 推進事業に付記した○印は、事業を行う時点（年度）を表したものです。重点事業と同様に、毎年度、予算査定を行います。